

プレビュー上映会 &トーク

VvK12

福田真知キュレーション 2015年3月

柵瀬茉莉子
榎木野淑子
福田真知 (VvK)
藤安淳
芳木麻里絵

in KUNSTARZT
3月3日|火|~15日|日|月休

井上裕加里・上野千紗・岡本光博
小沢裕子・寺岡海・端地美鈴
橋本玲美・花田恵理・林葵衣
林勇気・福田真知・藤本由紀夫
藤安淳・前田菜月・森川あいみ
山田麻美・吉田周平・大坪晶
笹岡敬・つかもとやすこ・他

in 新風館
3月3日|火|~15日|日|の間の数日間

平田剛志 (text)

岡本 光博

小沢 裕子

柵瀬 茉莉子

端地 美鈴

花田 恵理

林 葵衣

林 勇気

福田 真知

前田 菜月

吉田 周平



timelake
timelake.jp

2014.9.7

端地美鈴

「lost and found」

6分30秒

2012-1013

「TRAIN」「plant」「bubble」の短編作品3作。

消しかすで形を作っていくものは、生きているもの、動くことができるもの、成長していけるもの、変化できるもの。それらがアニメーションとして動くことで、いらなと思っていたものが新しい違うものになることができる。

無駄なものが無駄ではなくなるということ。

吉田周平

「いろいろワールド」

ビデオインスタレーション

2004

寺の門の下に台に置いたテレビを設置。設置した場所と同じ場所で撮影した、日用品が宙で舞う瞬間をつなぎ合わせた映像を再生。

特別展示(9月7日12:00-19:00)

「ある日のラジオ 2013.10.6 12:00-19:00」

2013

ビデオインスタレーション

ある日ある場所である時間帯に、ラジオが置いてあり、番組が放送され続けている様子の記録映像を、展示会場で同時刻に放送する映像インスタレーション。ラジオ番組に流れる時間と、ラジオが置いてある場所に流れる時間と、展示会場自体の時間が、重なり合いながら、なんでもない過ぎ行く時間の輪郭を意識させる。

林 勇気

「The layers of everything」

5:00

2011

私は膨大な量の写真を撮影しPCにとりこみ、きりぬき、重ねあわせて制作しています。本作は重ねあわせ映像がたちあがっていくことを可視化した映像作品です。

小沢裕子

「スピーチ」

DVD 6分05秒

2009年

偶然、インターネットで見つけた遠い異国の少女のスピーチ映像に、彼女が一体何を話しているのかわからないまま、勝手に字幕を付けた。だらだらと続く字幕の言葉は、少女の力強い調子や仕草の力を借りて生き生きとしていき、やがて字幕の方がだんだん力を増して彼女から独立していく。

例えば、夢を見ている間に現実をすっかり忘れていたり、夢の中の登場人物に自分が含まれておらず、目覚めれば何もしていないただの傍観者であった自分がいた事に気がつく瞬間。

例えば、一日中 youtube で他人の映像ばかり見ている、やがて窓の外は暗くなり、何もしていないただの鑑賞者でしかなかった自分に気がつく瞬間。それでもなお私たちは語り続けなければならない、そんなようなことをしゃべらせている。

「語呂合わせ」

DVD 1分50秒

2005年

どこかで誰かが言っていた事をあたかも自分で感じた事のように思い込んでしまい、気がつかないまま自分の口で再生してしまっている。そもそも日々自分で得た思いや、自分で得た感覚など本当にあると言えるのであろうか。自己の身体を使った経験のどれほど少ないことか。他人に埋め尽くされた結果、『自己の不在』になってしまった事を覆い隠そうとするも、反対に『自己の不在』が浮き彫りになってしまう。

柵瀬 茉莉子

「木を縫うーギャルリーパリの個展風景」

0:50

2011

「会津・漆の芸術祭」

5:03

2010

岡本光博

「w#52 coffee break part 1」

DVD 5minutes

1998

「CAFE coffee break」展 パンフレットより 石橋 綾 (Fragments Office)

岡本光博の「coffee break」は、2つのパフォーマンスを収録したNo.1とNo.2で構成される、いたってミニマルな映像作品だ。No.1では、ストーブの上に置かれた缶コーヒーがじわじわと熱せられ、爆発するまでが淡々と映し出されてゆく。しかし、仮に自分の周りの人間が不意にこのようなあからさまなイタズラを始めたとしても、危ないと察知する人が何人いるだろう？

平穏に見える日常生活のなかで、あまりにも鈍感になっているこのような“危険性”について、岡本はひとときの休息に使われる“コーヒープレイク”という言葉でコーヒーがブレイク(自己破壊)するというジョークにすり替えてそれを実践してみせるのだ。缶コーヒーを電子レンジにいれ、スタートボタンを押してから缶コーヒーが電子レンジごと壊れるまでを撮ったNo.2には、日常では目にすることができない電磁波が、美しく火花として視覚化されている。電子レンジの四角いフレーム内を火花が激しく飛び交う様は、まるで抽象絵画を覗いているようだ。目の前の現象は間違いなく危険であり、身体や周囲の状況に被害をもたらしかねないにもかかわらず。

この光景に魅了されるのは何故なのだろうか？混乱する思考をよそに映像は進む。そして、この光景を見ながら、思考はより過激にエスカレートし、私たちはどこかですでに爆発という悲惨な結末を妄想したりはしないだろうか。単調な「coffee break」の映像は、危険性に対する鈍感さを露わにすると同時に、一方で、より危険な、より過激なものに惹かれてゆく私たちの矛盾性を焙り出すのだ。

「w#118 Masked Police Car UK -Paul's driving-」

DVD

2009

A contemporary artist whose work often focuses on unearthing the layers that exist in our world. He is especially interested in exploring the differences between what we see and are shown, and to the hidden layers that are often obscured or manipulated.

Masked Police Car is particularly interested in how ordinary cars can be imbued with authority through symbols, his car covers have been playfully likened to wrestler's masks.

text from 'Strange world' show's leaflet
Blackburn Museum and Art Gallery,2009

花田恵理

「20の夜」

5:04

2012

らくがきをして、窓ガラスと蛍光灯を割って、修復をした。

林葵衣 (hayashi aoi)

「one scene -2011/4/8-」

0:59

2011

雨が降る中、車の中からフロントガラス越しに撮影したもの。
one sceneシリーズの一つ。

「one scene -2011/3/12-」

3:37

2011

一見、ただの砂嵐に見える映像だが、水面、空、撮影者がカメラを持って地面を撮影した、3つの映像が重なっている。目を凝らしてみると、雲や水面の波紋、撮影者の服や足等が見えてくる。時間軸の異なった光景を一つの画面に同時に映せるのは映像ならではの機能である。

映像に付属している音は、「雑踏の音楽」という曲で、2008年に制作した。地元の街中を歩きながら録音した音とキーボードの音をランダムに選んだもの。雨が傘にあたる音、自転車のスタンドを下げる音などから、街の風景を予測したり、推理することができる。

これら映像全体として4つの光景、時間軸を体験する事が出来る。

結果として鑑賞者は、目の前に流れる4つの時間軸がいきかう光を眺め、縦横無尽に過ぎる時間をぼんやりと眺め、新たな時間感覚を認識することになる。

timelake02「プレビュー上映会&トーク」

2014年9月7日(日)

18:00から20:00

入場無料 ギャラリー揺

2015年3月に開催される
timelake -時間の湖- 展。
参加作家の過去作・実験作
などをプレ上映。

■ プレビュー上映 (19:00頃より)

参加作家の中から10名の映像作品(過去作・実験作)
を上映いたします。

岡本 光博 OKAMOTO Mitsuhiro
小沢 裕子 OZAWA yuko
柵瀬 茉莉子 SAKURAI Mariko
端地 美鈴 HASH IJI Misuzu
花田 恵理 HANADA Eri
林 葵衣 HAYASHI Aoi
林 勇気 HAYASHI Yuki
福田 真知 FUKUTA Masakazu
前田 菜月 MAEDA Natsuki
吉田 周平 YOSHIDA Shuhei

■ 揺にゆかりのある三人 林勇気・福田真知・吉田周平 によるトーク。 (18:00より)

「timelake -時間の湖- 展」参加作家の中で、
林勇気・福田真知・吉田周平は、
偶然にも、ギャラリー揺で展覧会を開催したことがあります。
ギャラリー揺はホワイトキューブではなく、展示空間の半分は美しい庭、
そして、室内も和室とフローリングという、作家にとっては難しく魅力的な
挑みがいのある空間です。

それぞれが、どのように揺の空間にアプローチしたか。
展示を振り返りながらお話しします。

■ ささやかなレセプション (20:00頃より)

前田 菜月

「nose counter」

4:57

2014

トイレの匂いがするマルセイユ。
クラウンの赤い鼻を花のマスクでプロテクトする。クラウンノーズをトゥルーノーズへ。
街をこっそりとチェンジする。

福田真知

「film」

1:08

2006

母が柵の整理をしていたら、ふと、私が 初めて立った時 の写真がでてきた。
母はその時の様子を、写真を眺めながら、昨日のこのように話してくれた。
自分が写真に写っているのに、今の自分はそのときのことを覚えていない。
思い出せない記憶でも脳みそのどこかに、その記憶はあるのだという。
思い出せない記憶を思い出すことは出来ないのだろうか？
昔の写真にビニールクロスを被せ、マジックペンで写してゆく。
適当な所でまた新しいビニールクロスを被せ、また写す。
その中で、思い出したこと、思ったことは、すべてメモしていくことにした。

「ミキシングリバー」

5:10

2007

流れゆく川の水を、留めたり、流したりしながら、
ただ流れ行くものごとに関して、少しだけその後を変える。

主催:timelake実行委員会
お問合せ:perhaps_this_mirai@yahoo.co.jp

timelake.jp